

IBM solidDB Universal Cache

バージョン 6.3

クイック・スタート・ガイド

このスタート・ガイドでは、IBM solidDB Universal Cache バージョン 6.3の標準的なインストール手順を説明します。



製品の概要

IBM® solidDB® Universal Cache は、アプリケーションとデータ・サーバー間でデータ・トラフィックをキャッシングする 1 つ以上の solidDB インメモリ・データベース・インスタンスによって、従来のディスク・ベース SQL データ・サーバーを高速化するソリューションです。solidDB とデータ・サーバー・インスタンス間のデータ・レプリケーションのインプリメントには、IBM InfoSphere™ Change Data Capture (InfoSphere CDC) テクノロジーが使用されています。

IBM solidDB Universal Cache 6.3 製品は、個別にインストールする必要がある solidDB コンポーネントと InfoSphere CDC コンポーネントで構成されています。

1 ステップ 1: システム要件



システム要件について詳しくは、solidDB の Web ページ <http://www.ibm.com/software/data/soliddb/soliddb/sysreqs.html> を参照してください。

2 ステップ 2: ソフトウェアおよび文書へのアクセス



以下にリストするソフトウェア・インストール・パッケージおよび文書パッケージを検索してください。

IBM の Web サイトからパッケージをダウンロードする場合には、ご使用のプラットフォームに関連するソフトウェア・パッケージおよび文書パッケージを選択し、ダウンロードしてください。

物理メディアからパッケージをインストールする場合には、各パッケージが個別の DVD で配布されます。各パッケージで、ご使用のプラットフォーム用のインストール・ファイルにナビゲートしてください。

- IBM solidDB 6.3
- IBM solidDB 6.3 Documentation
注: 物理メディアの配布では、solidDB Documentation パッケージはクイック・スタート DVD に含まれています。
- InfoSphere Change Data Capture v6.3 solidDB
- InfoSphere Change Data Capture Management Console および Access Server v6.3
注: Management Console と Access Server には、独自のインストーラーが存在します。
- セットアップ内のバックエンド・データ・サーバー 用 IBM InfoSphere Change Data Capture v6.3
- InfoSphere Change Data Capture v6.3 Documentation

3 ステップ 3: IBM solidDB のインストール



1. **Java™ ランタイム環境 (JRE) または Java Development Kit (JDK) バージョン 1.4.2 以降をまだインストールしていない場合は、インストールします。** これは、インストーラーを実行するのに必要です。注: Linux® システムでは、GNU Compiler for Java (GCJ) はサポートされていません。
2. **ソフトウェアをインストールします。**
 - Windows® システムでは、製品イメージ・ファイル .exe で Windows インストーラーを実行します。
 - UNIX® または Linux システムでは、該当する製品イメージ・ファイル .bin でインストーラーを実行します。
3. **solidDB パッケージのインストール・ディレクトリーで Welcome ページを開き、Release Notes およびその他の文書を読みます。**
4. **サンプルを使用可能にします。** サンプルを実行するには、各サンプル実行ディレクトリーにライセンス・ファイルを格納する必要があります。solidDB には、90 日間有効な評価ライセンスが含まれています。ライセンス・ファイルを該当するすべてのサンプル・ディレクトリーにコピーするには、copy_licenses.bat (Windows) または copy_licenses.sh (UNIX または Linux) という名前のスクリプトを実行してください。
5. **CLASSPATH 環境変数の設定に JDBC ドライバー .jar ファイルが含まれているか確認します。** solidDB のインストール時に、solidDB JDBC ドライバー・ファイル (SolidDriver2.0.jar) が 'jdbc' ディレクトリーにコピーされます。ただし、インストーラーは、ご使用の環境用に CLASSPATH 環境変数を設定しない場合があります。

4 ステップ 4: 文書パッケージのインストール



1. solidDB Documentation パッケージを、選択した場所に unzip します。
注: solidDB パッケージの Welcome ページを通して PDF 形式の英語版 solidDB マニュアルにアクセスするには、PDF ファイルを solidDB インストール・ディレクトリーの 'manuals' ディレクトリーに unzip します。
2. InfoSphere CDC Documentation パッケージの指示に従い、InfoSphere CDC Documentation をインストールします。

5 ステップ 5: InfoSphere CDC for IBM solidDB およびバックエンド・データ・サーバー用 InfoSphere CDC のインストール



- Windows システムでは、製品イメージ・ファイル .exe で Windows インストーラーを実行します。
- UNIX または Linux システムでは、該当する製品イメージ・ファイル .bin でインストーラーを実行します。

注: インストールの終わりに、インストーラーが、InfoSphere CDC インスタンスを構成するようプロンプトを出します。この時点では、新しいインスタンスの構成を選択しないでください。その代わりに、残りの InfoSphere CDC コンポーネントのインストールを継続して、すべてのコンポーネントをインストールした後、「*IBM solidDB Universal Cache ユーザー・ガイド*」(solidDB Documentation パッケージに含まれる)の構成手順に従います。

6 ステップ 6: InfoSphere CDC Access Server および InfoSphere CDC Management Console のインストール



- Windows システムでは、製品イメージ・ファイル .exe で Windows インストーラーを実行します。
- UNIX または Linux システムでは、該当する製品イメージ・ファイル .bin でインストール・スクリプトを実行します。

7 ステップ 7: 文書の検索



IBM solidDB および InfoSphere CDC for IBM solidDB: solidDB パッケージのインストール・ディレクトリーで Welcome ページを開き、Release Notes およびその他の文書を読みます。また、ダウンロードした solidDB ユーザー・マニュアルを検索するか、solidDB インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/soliddb/v6r3/>) でオンライン・フォーマットの solidDB ユーザー・ガイドにアクセスします。

InfoSphere CDC Management Console および InfoSphere CDC Access Server: ダウンロードした文書を検索するか、InfoSphere CDC Management Console のインストール・ディレクトリーで文書にアクセスします。

バックエンド・データ・サーバー用 InfoSphere CDC: ダウンロードした文書を検索するか、バックエンド・データ・サーバー用 InfoSphere CDC のインストール・ディレクトリーで文書にアクセスします。

8 ステップ 8: 環境の構成



「*IBM solidDB スタートアップ・ガイド*」の手順に従って solidDB を構成します。solidDB を構成した後、「*IBM solidDB Universal Cache ユーザー・ガイド*」の手順に従って solidDB Universal Cache システムを構成します。

詳細について



追加情報は、solidDB の Web ページ (<http://www.ibm.com/software/data/soliddb/soliddb/>) を参照してください。